

# 金沢市伝統工芸品産業アクションプラン 【骨子案】

平成22年1月現在  
金 沢 市

# 第1章 金沢市伝統工芸品産業の現状と課題

## 1 金沢市伝統工芸品産業の概要

- 金沢市の伝統工芸品産業は26種類を数え、その多彩さは国内屈指の水準にある。市の基幹産業であるとともに、市民の質の高い生活を支え、金沢のアイデンティティの根幹をなしている。
- 加賀地域に伝来の素材や技術に、先進地であった京都のデザインや技法などが融合され、武家文化独特の豪華さと信仰心の厚い町衆の風土に根付いた様式を併せ持つ加賀調のデザインが確立されることで、他の都市とは異なる独自性を持ち、国内外から高い評価を得てきた。さらに、今もなお工芸品が日常生活の中で愛用され、豊かな生活文化を育てていること、工芸的なものづくりの精神が現代の産業に活かされていることが、金沢における伝統工芸品産業の大きな特徴となっている。

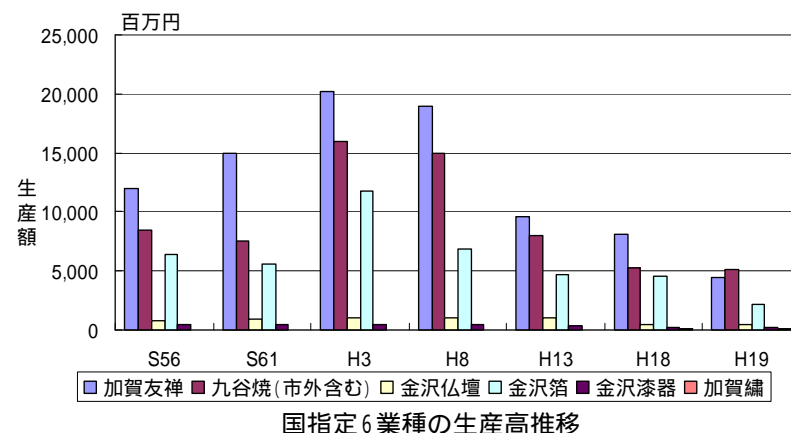
## 2 金沢市の取り組み

- 金沢市における伝統工芸品産業振興施策は、市制が発足した明治期まで遡る。以降、金沢美術工芸大学の設立、加賀友禅染色団地や金沢箔工業団地等の生産基盤整備、展示会開催等の販路拡大支援などを実施してきた。
- 世界工芸都市宣言（平成7年）において、伝統工芸を新たな視点から世界へ向けて発信していくことを宣言。ファッション産業都市宣言（平成16年）では、繊維や伝統工芸を含む生活文化すべてにかかわるファッションの分野において世界をリードするファッション産業都市づくりを進めることを宣言し、伝統工芸品産業の目指す方向性を明確にした。
- 現在、「金沢の技と芸の人づくり奨励金」等の人材育成支援、「金沢ブランド工芸品開発促進事業」等の新商品開発支援、「金沢・クラフト広坂」「おしゃれメッセ“かなざわごのみ”」等の販路拡大など、人材育成から製造、販売、情報発信に至る多様な取り組みが進められている。
- 平成21年には、一連の取り組みが評価され、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト分野に登録された。



## 3 伝統工芸品産業の生産状況

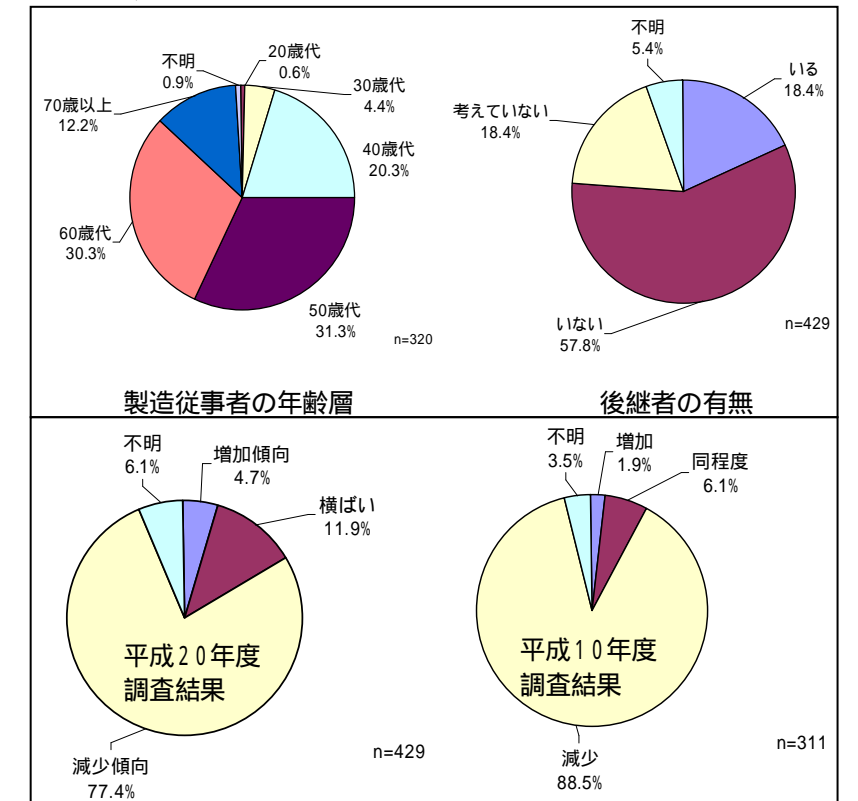
- 国指定の6業種（加賀友禅、九谷焼、金沢仏壇、金沢箔、金沢漆器、加賀繻）の生産額を見ると、平成3年をピークとして減少に転じている。バブル崩壊以後の減少傾向に歯止めがかからず、ピーク時の4分の1まで縮小した業種も見られる。
- 統計数値のない未指定業種においても、ほぼ同様の傾向であると考えられる。



## 4 伝統工芸品産業事業者および従事者の状況

平成20年に実施したアンケート調査結果によると、伝統工芸品産業事業者および従事者の状況は以下のとおりとなっている。

- 製造従事者の高齢化
  - 従事者の年齢層は40歳代から60歳代で全体の8割以上を占めており、若年層の参入はきわめて少ない。
- 後継者の不在
  - 後継者が「いる」との回答は20%に満たず、半数以上が「いない」と回答。製造を担う後継者不足が顕在化している。
- 経営状況の悪化
  - 過去5年間の売上推移について、「減少傾向」が77.4%、「増加傾向」は4.7%にとどまる。
  - ただし、過去の調査と比較すると、横ばいを含め若干の増加傾向にあることから、沈滞が続く事業者と商機を見いだす事業者との二極化の傾向が見られる。
- 受注量の減少・受注単価の低下
  - 受注・販路拡大の問題点としては、「受注量の減少」「受注単価の低下」との回答が多く占めている。
  - また、商品製造、開発においては「原材料の仕入れ価格高騰」「試作等のコスト負担が大きい」「新商品開発のノウハウ不足」などの回答が目立ち、商品開発から販路拡大に至るまでさまざまな課題を抱える現状にある。



## 5 取り組むべき課題

金沢の伝統工芸品産業は、長い歴史の中で市民の生活と文化・地域経済を支えてきたが、需要の縮小に加えて伝統技術を継承する職人の高齢化など多くの困難に直面している。しかし、近年はその価値が国際的に評価されるなど、好転の兆しも現れている。

### 若手後継者の参入促進

技術の保存継承、若年後継者の育成が急務となっている。また、新しい自由な発想によるものづくりを促進するため、作り手が活動しやすい環境を整えるなど、若手後継者の参入を促す必要がある。

### 新商品開発・提案の促進

現代生活にあった新商品開発の促進はもちろんのこと、モノとしての商品開発にとどまらず、流通からエンドユーザーまでを見越した企画、提案を促進するための仕組みづくりが必要である。

### 「金沢」としての情報発信・マーケティング

クラフト創造都市登録などを契機として、工芸品が支えてきた質の高い生活、伝統文化など、金沢独自の都市イメージと合わせた情報発信、マーケティングを強化する必要がある。

## 第2章 アクションプランの基本的な考え方

### 1 アクションプランの位置づけ

- ・市の最上位計画である「金沢世界都市構想」（平成7年12月策定）においては、『小さくとも世界の中で独特の輝きを放つ「世界都市」の形成』を目指し、「伝統工芸は、金沢を象徴する伝統文化であり、伝統産業でありまた個性でもある」と位置づけ、その継承・発展を図ることとしている。また、「金沢世界都市構想第2次基本計画」（平成18年3月策定）においては、産業として成り立ちにくい希少伝統工芸等について、販路や後継者の確保を進めることを定めている。
- ・「金沢市ものづくり基本条例」（平成21年3月議決）においては、ものづくりに関する総合的かつ計画的な施策を策定することとしている。
- ・このアクションプランは、これら上位計画・条例等に基づいた、伝統工芸品産業の健全な発展に向けた具体的な施策展開の指針となるものである。
- ・さらに、「世界工芸都市宣言」（平成7年9月議決）、「ファッション産業都市宣言」（平成16年6月議決）において、伝統工芸を世界に発信し、伝統工芸を含むファッション分野において質の高いものづくりを進めることとしており、また、平成21年のユネスコの創造都市ネットワークにおけるクラフト分野での登録は、金沢の伝統工芸品産業が世界的な役割を担うことが期待されている。このような役割を果たすための具体的な計画としてもこのアクションプランは位置づけられる。

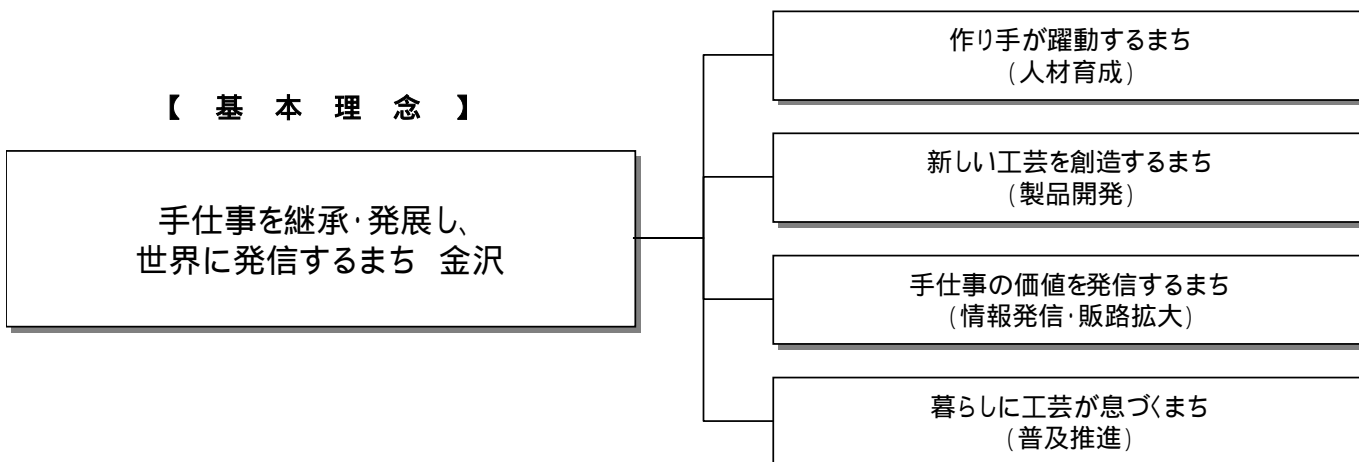
### 2 アクションプランの推進期間

- ・このアクションプランの推進期間は、平成22年度から平成31年度までの10年間とする。
- ・なお、社会経済状況の変動、伝統工芸品産業をめぐる情勢の変化、施策実施の結果等を踏まえて、平成26年度に見直しを行うこととする。

### 3 アクションプランの基本理念

- ・金沢の伝統工芸品産業は、全国の多くの産地と同様に需要の縮小に直面し、伝統技術を継承する職人の減少、商品開発・販路拡大の難しさなど、厳しい状況に置かれている。
- ・このアクションプランは、こうした現状を打開し、新しい工芸品の開発、販路の拡大、情報発信などを通して、金沢市の伝統工芸品産業の振興を目指すものである。これまで伝えられ、積み重ねられてきた手仕事の技能と知恵を、次の世代に確実に継承するとともに、新しい感性により伝統を発展させ、現代に生きる人々の心を動かす新しい金沢の工芸を創造し、広く世界へ発信していくことを志向する。
- ・このため、アクションプランの基本理念として、「手仕事を継承・発展し、世界に発信するまち 金沢」を定め、さらに分野ごとに4つの将来像を設定し、施策展開の柱として位置づける。

#### 【4つの将来像】



### 4 各主体の役割

#### 事業者の役割

技能の継承と向上、新しい商品開発や販路拡大に取り組み、現代の生活にあった製品、使い方の提案に努める。産地組合等の団体は、経済的支援にとどまらず、伝統工芸が加賀文化の重要な一翼を担う主体であることを認識し、伝統工芸品産業の発展と工芸品への理解の拡大に努める。

#### 市民の役割

伝統工芸品産業への理解を深めるとともに、暮らしの中に工芸品を活かし、金沢の文化として次の世代へ継承していくことが求められる。

#### 高等教育機関・試験研究機関の役割

各機関の特性に応じて、製品開発、販路拡大、技術開発などに取り組みとともに、事業者や行政との連携を深め、課題の解決に努める。

#### 市の役割

本プランの推進主体として目標に向けた総合的かつ計画的な施策展開を進める。また、事業者等と連携し、イベント等を通して、伝統工芸品産業の役割や工芸品のよさを市民に伝えていく。

### 5 数値目標の設定

- ・施策の進行状況およびプランの成果について検証するため、以下の通り評価指標を設定する。

項目	指標	数値根拠・計測手法	現状数値 (H20実績)	目標数値 (H31目標)	
プラン推進の成果	伝統工芸品産業従業者数	金沢市の伝統工芸品産業26業種の従業者数(市集計)	2,804人 (指定業種)215人 (未指定)	約3,000人	
	国指定6業種生産高	国指定6業種の年間生産額(各産地組合集計)	121億円	増加	
	「売上増加」事業者の割合	事業者アンケート調査において「5年前と比較して売上げが増加」と回答した事業者の割合(市集計)	4.7%	約10%	
分野別個別施策(事業)の実施結果	人材育成	伝統工芸異業種職人塾参加者数	伝統工芸異業種職人塾への参加人数(市集計)	14人	70%増
		新規参入者比率	事業者アンケート調査において従事期間が「5年未満」と回答した事業者(職人)の割合(市集計)	0.3%	約3%
		国指定伝統工芸士数	国指定6業種における伝統工芸士の数(累計)	237人	10%増
	製品開発	金沢ファッション産業創造機構による商品開発数	金沢ファッション産業創造機構が関わった商品開発プロジェクト数および商品開発に関わる事業者からの相談件数(機構集計)	7件	100%増
		金沢ブランド工芸品開発促進事業への応募数	金沢ブランド工芸品開発促進事業への応募数(市集計)	3件	100%増
	情報発信 販路拡大	展示会入場者数	「おしゃれメッセかなざわごのみ」におけるのべ入場者数(同実行委員会集計)	46,955人	20%増
		クラフト広坂の入店者数	「金沢・クラフト広坂」におけるのべ入店者数(市集計)	46,854人	20%増
	普及推進	施設利用者数	市内工芸関係施設の利用者数(市集計)	46,964人	20%増
		体験教室等の参加者数	市および関係団体が主催する体験教室の参加人数(市集計)	2,211人	20%増

## 第3章 主な施策

金沢の藩政時代から伝えられ、積み重ねられてきた高度な手仕事の技能や知恵を受け継ぎ、次の世代に確実に継承していくとともに、多様な連携と新たな感性により伝統を発展させ、現代に生きる人々の心を動かす新しい工芸を創造し、金沢の魅力を高めていく。さらに、工芸品を作り、伝え、使う市民一人ひとりが支えてきた独自の質の高い工芸文化に一層の磨きをかけ、金沢のまちの中でさまざまな人々の交流を生み出し、金沢の工芸を広く世界に発信していく。

### 4 つ の 将 来 像

#### 「作り手が躍動するまち」（人材育成）

- ・「平成の百工比照」の収集・作成など伝統技術の記録・保存を進める一方、熱意のある若い世代の参入を促進し、技術の確実な継承を図る。また、職人の持つ技術にさらに磨きをかけ、業種を越えた研修会、交流を支援し、作り手同士の多様なネットワークの形成を進めていく。
- ・伝統に裏打ちされた高い技能と洗練された感性を備えた意欲ある作り手たちが自在に連携し、自由な創意と工夫により、現代に生きる人々の心を動かす工芸品を生み出すことができる、作り手が躍動するまちを目指す。

#### 「新しい工芸を創造するまち」（製品開発）

- ・デザイン性の高い新商品開発や、高等教育機関・試験研究機関等との連携による職人の持つ高度な技術と現代の技術との融合により、高い品格を持った現代生活に調和する伝統工芸品の開発を促進するとともに、意欲的な商品開発を支援する体制を整える。
- ・また、中心市街地の町家を若手職人のインキュベーション施設として活用するなど、金沢ならではのものづくり基盤の整備を進め、新しい工芸を創造するまちを目指す。

#### 「手仕事の価値を発信するまち」（情報発信・販路拡大）

- ・「おしゃれメッセ」「金沢・クラフト広坂」の充実などを通して、金沢から付加価値の高いものづくりを発信する体制を強化するとともに、金沢版「クラフト・ツーリズム」の展開により、金沢の伝統工芸を広く世界にアピールしていく。
- ・また、販路拡大を進めるため、使い手と作り手をつなげる販路開拓コーディネーターの設置、流通関係者等によるセミナー等の開催、ITビジネスプラザ武蔵との連携による情報発信力の強化などにより、作り手の顔が見える、金沢らしい手仕事の価値を発信するまちを目指す。

#### 「暮らしに工芸が息づくまち」（普及推進）

- ・市民を対象とした伝統工芸に関するさまざまな普及講座や体験教室を充実させ、まちなかでのクラフトワゴン市の開催など、使い手が作り手と直接対話しながら商品に触れる機会をつくり、多くの市民が伝統工芸品産業への関心を高め、生活の中に工芸品を取り入れる契機とする。
- ・また、金沢の伝統工芸文化を次世代に継承するため、小中高生向けの工芸体験などの伝統工芸品とのふれあいの機会を創出するとともに、大学等で伝統工芸品産業の講座を開催し、全国から集まる学生等にも金沢の伝統工芸への理解を深めてもらうことで、工芸品を生み出すだけでなく、一人ひとりが日常生活の中に工芸品を取り入れ、市民の暮らしに工芸が息づくまちを目指す。

### 主 な 施 策

#### 手仕事を継承する

- ・「平成の百工比照」の収集作成・公開
- ・金箔製造技術の調査
- ・「技と芸の人づくり基金」による奨励金制度
- ・金沢和傘伝承研究会による後継者育成 など

#### 手仕事を発展させる

- ・伝統工芸異業種職人塾の開催
- ・伝統工芸職人同士の交流支援 など

#### 商品開発を支援する

- ・金沢ファッション産業創造機構による新製品開発支援
- ・産学官連携による技術研究の実施 など

#### 基盤を整備する

- ・町家職人工房の開設・運営
- ・中心市街地への職人工房の開設促進 など

#### 金沢から発信する

- ・おしゃれメッセの開催
- ・金沢版「クラフト・ツーリズム」の展開
- ・「金沢・世界工芸トリエンナーレ」の開催 など

#### 販路を広げる

- ・金沢ファッション産業創造機構による販路拡大支援
- ・「金沢・クラフト広坂」による販路拡大と情報発信 など

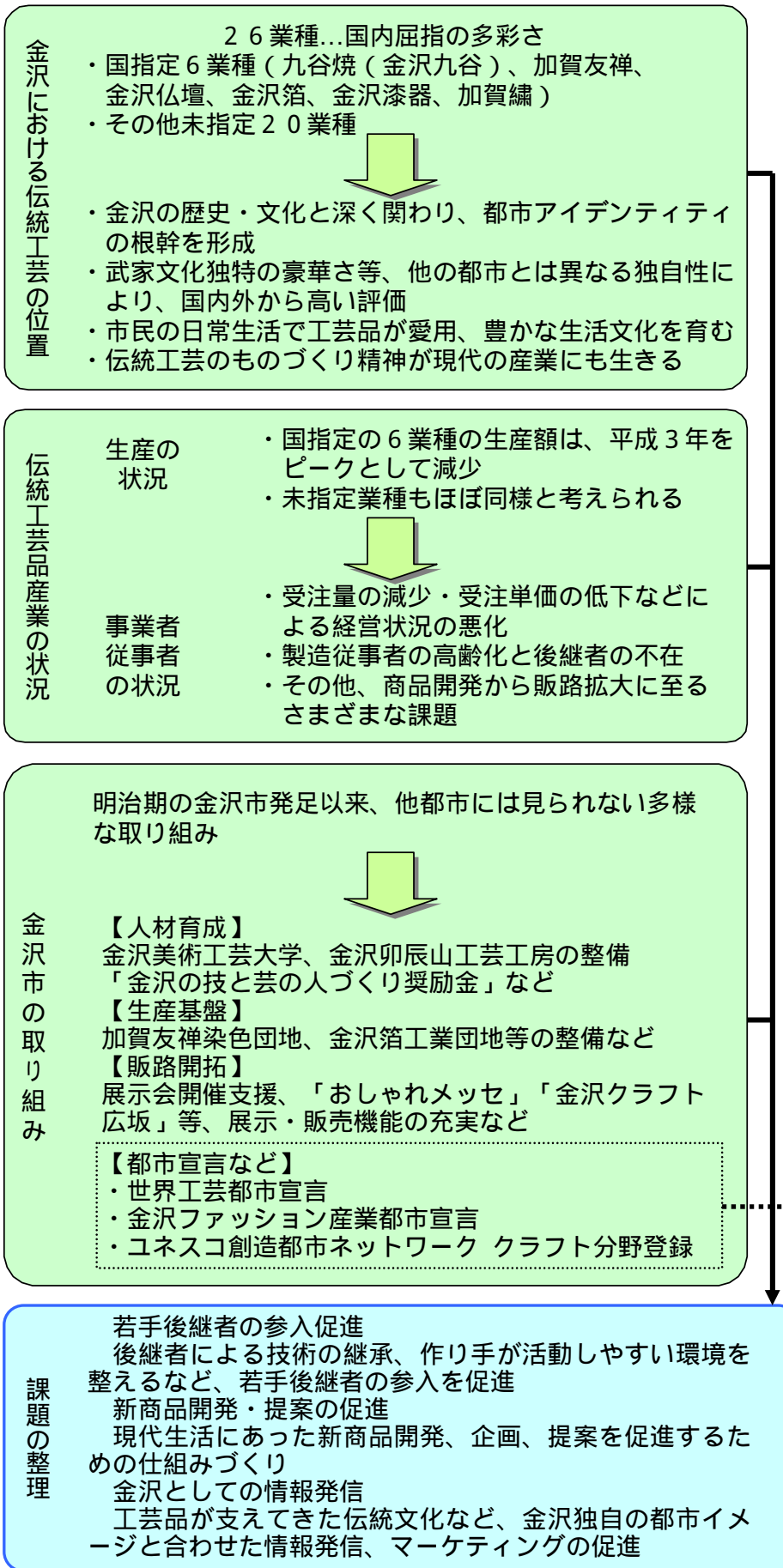
#### 知ってもらおう・使ってもらおう

- ・まちなかクラフトワゴン市の開催
- ・伝統工芸体験教室の実施 など

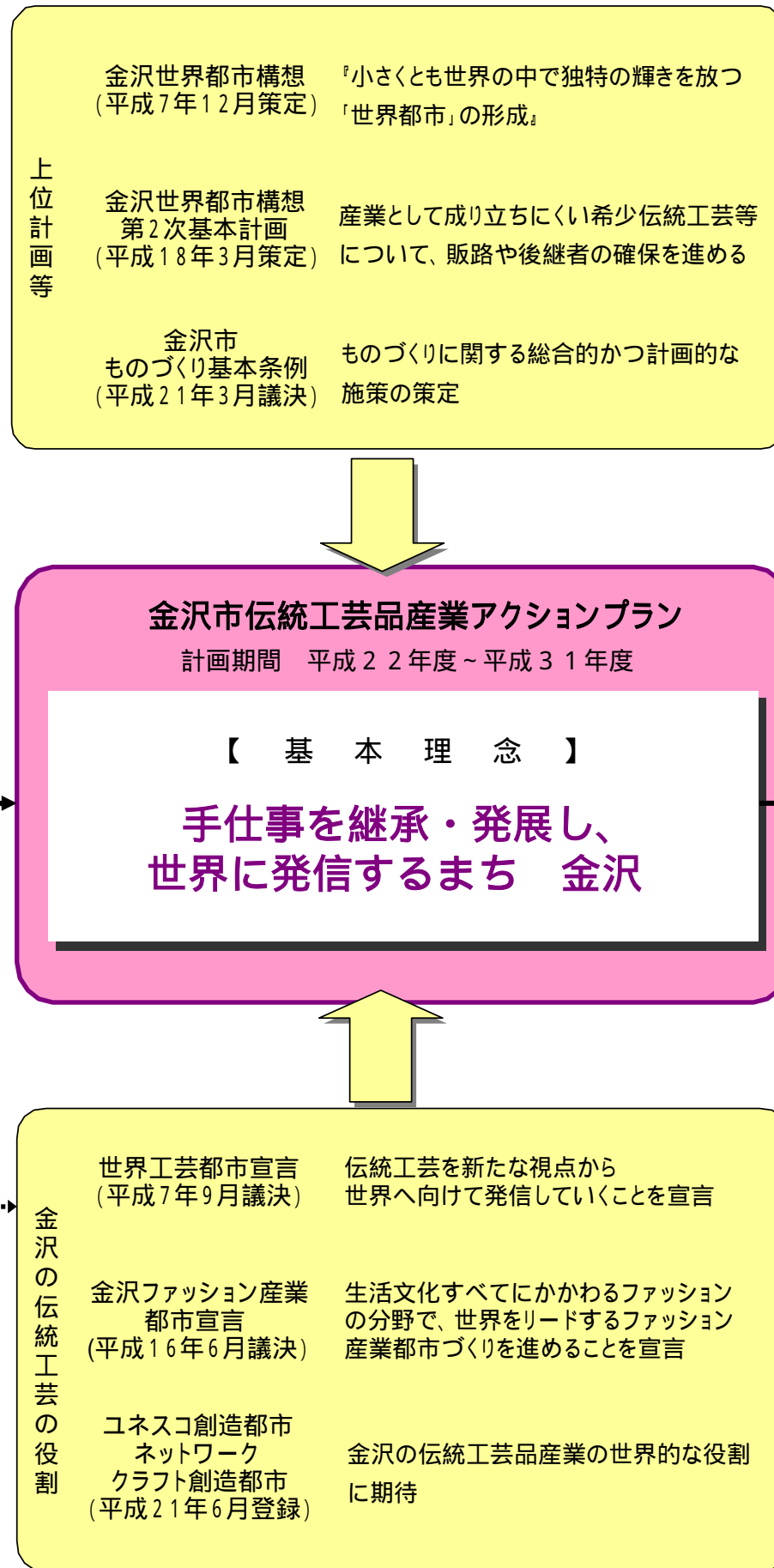
#### 次世代へ継承する

- ・金沢工芸子ども塾の開催
- ・小中学校における伝統工芸体験教室の開催 など

# 金沢の伝統工芸品産業の現状



# アクションプランの位置づけ



# 施策の展開

